

令和7年度



新城市民病院 新病院建設基本構想市民ワークショップ
～ みんなで考えよう あなたのまちの市民病院 ～

令和7年6月21日（土）

【目次】

1. 新城市民病院の概要
2. 新城市民病院の主な沿革
3. プロローグ
4. 新城市民病院を取り巻く環境
5. 数字でみる新城市民病院
6. 新城市民病院の取組み
7. ワークショップで考えて欲しいこと

1. 新城市民病院の概要

新城市民病院理念

温かい心と確かな技術で、地域住民に信頼され選ばれる病院

新城市民病院憲章

新城市民病院は、奥三河の基幹病院として

1. 患者様本位の医療を行い、思いやりのあるサービスに努め、愛される病院となるよう心がけます。
2. 安全で適切な医療を提供するため、全職員が自己研鑽に努め、質の高い医療サービスを提供します。
3. 高度医療機器の整備、病診連携の促進を図り地域住民のニーズに対応した医療に努めます。
4. インフォームド・コンセントを重視し、プライバシーの尊重及び公平・公正な医療の提供によって、安心感と信頼感のもてる医療を提供します。
5. 健全な病院経営を目指し、業務効率の向上に努めます。

1. 新城市民病院の概要

名称	新城市民病院	
病院長	金子 猛	
所在地	愛知県新城市字北畑3番地1	
医療圏	愛知県 東三河北部医療圏（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）	
病床数	199床（一般病床） ※26床休床中	
診療科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合診療科 ■ 呼吸器内科 ■ 小児科 ■ 整形外科 ■ 消化器外科 ■ 大腸・肛門外科 ■ 耳鼻いんこう科 ■ 歯科口腔外科 ■ 精神科 ■ 循環器内科 ■ 外科 ■ 脳神経外科 ■ 皮膚科 ■ 婦人科 ■ リハビリテーション科 ■ 麻酔科 ■ 脳神経内科 ■ 腎臓内科 ■ 血管外科 ■ 呼吸器外科 ■ 泌尿器科 ■ 眼科 ■ 放射線科 	
主な医療機器	<ul style="list-style-type: none"> ■ X線CT装置（80列マルチディテクタ） ■ 超音波診断装置 ■ X線一般撮影装置 ■ 内視鏡下手術セット ■ X線骨密度測定装置 ■ 人工透析装置 ■ 化学発光免疫測定装置 ■ 微生物検査同定・薬剤感受性検査機器 ■ 脳波計 ■ 睡眠ポリグラフィー・自動解析装置 ■ MRI装置 ■ 内視鏡装置（経口、経鼻） ■ 乳房X線撮影装置 ■ 超音波凝固切開装置 ■ ホルミウムレーザー装置 ■ 多項目自動分析装置 ■ 血液ガス分析装置 ■ 長時間心電図記録器 ■ PCR装置 	
その他施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 院内保育所（定員10名） ■ 職員食堂 ■ 理容室 ■ 看護学校生徒研修室 ■ 医師住宅（病院所有2棟8世帯） その他民間からの借り上げあり ■ 喫茶室 ■ 売店 	

1. 新城市民病院の概要

当院の院長先生はこんな人！！



2. 新城市民病院の主な沿革

昭和20年	11月	20日	町立新城病院として開院 診療科目 内科、外科、耳鼻科、眼科、歯科、病床数20床、職員 医師5名、薬剤師2名、X線技師1名
昭和22年	4月	1日	新城町国民健康保険組合に移管、新城国保病院と改称
昭和22年	9月	1日	一般病棟（25床）新築、病床数40床に変更
昭和25年	11月	1日	一般病棟（25床）、結核病棟（76床）増築、病床数126床に変更（一般50床、結核76床）
昭和27年	10月	1日	組合立新城伝染病棟（45床）併設増築、病床数177床に変更（一般50床、結核82床、伝染45床）
昭和33年	11月	1日	市制施行により新城市民病院と改称
昭和34年	2月	5日	病床数227床に変更（一般86床、結核96床、伝染45床）
昭和37年	5月	31日	一般病床（60床）新設、病床数287床に変更（一般146床、結核96床、伝染45床）
昭和40年	12月	15日	組合立伝染病棟（30床）増改築、病床数270床（一般144床、結核96床、伝染30床）に変更
昭和43年	12月	4日	病床数を一般192床、結核48床、伝染30床に変更
昭和54年	1月	1日	病床数262床に変更（一般216床、結核16床、伝染30床）
昭和57年	4月	1日	病床数326床に変更 （一般280床、結核16床、伝染30床）
平成元年	4月	1日	病床数317床に変更（一般301床、結核16床）
平成8年	11月	26日	災害拠点病院に指定
平成14年	6月	1日	医療相談室開設
平成14年	12月	2日	結核病床廃止、病床数301床に変更（一般301床）
平成14年	12月	26日	LDR室新設
平成15年	8月	19日	病床を一般255床、療養46床に変更
平成16年	10月	1日	地域医療連携室開設
平成17年	9月	15日	病床数271床に変更（一般255床、療養16床）
平成19年	10月	1日	オーダーリングシステム導入、64列マルチスライスCT導入、ホルミウムレーザー装置導入

3. プロローグ

(1) 新城市民病院ってどんな病院

①

現状

- 許可病床数199床、23の診療科で各種疾病に対応
- 外来患者数は1日**264人**（令和5実績）
- 入院患者数は1日**95.5人**（令和5実績）



- 内科系医師1名と看護師2～3名で、**24時間体制で救急医療**に対応
- **新型コロナウイルス患者**の受入れ
- 医療実習生の受入れ等、**医療人育成**への取り組み
- 市民向け健康講座を実施し**健康増進**に寄与

③

市民病院

②

災害拠点病院

- 災害医療に対応する体制を整備
- **災害派遣医療チーム（DMAT）**を有し、令和6年1月に発生した能登半島地震へもチームを派遣
- “いざ”という時のために災害訓練を継続

- **東三河北部医療圏**（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）をカバー
- **へき地医療拠点病院**として東栄町国民健康保険東栄診療所や新城市作手診療所へ医師を派遣
- 東三河南部医療圏（豊橋市、豊川市）の**医療機関と連携し幅広い医療**に対応

④

地域医療

3. プロローグ

(2) 新城市民病院を取り巻くリスク

①

現状

- 老朽化が進み最も古い西病棟は**築43年**、法定耐用年数の39年を超過
- 耐震診断の結果、西病棟は**大規模地震に耐えられない建物構造**
- 患者サービスや病院経営の観点から、耐震改修工事等は**デメリット**が多い
 - 騒音や振動等により**療養環境が悪化**する
 - 外来や駐車場等での**安全性の確保**の問題
 - 将来的に、**大規模改修（追加費用）**が必要

建物の老朽化が課題

- 物価高騰や人件費の上昇が病院経営を直撃
- 6～7割の病院が**赤字経営**
- 救急医療や感染症対応等、今後も**公立病院の使命と役割**を果たす必要あり

③

市民病院

災害拠点病院

- **南海トラフ巨大地震**の発生時は、内陸部に位置する本院が愛知県東部等の重要な医療拠点となる可能性あり
 - 豊橋市民病院の周辺は、0.5～3メートルの津波到着や液状化現象が発生する恐れあり

②

- 東三河北部医療圏の人口減少は加速、2050年頃の人口は「**現在の3分の2になり、2人に1人は高齢者**」の時代が到来
- 人口減少に伴い**医療従事者**（働き手）も不足
- 東三河南部医療圏との**連携強化**が必要

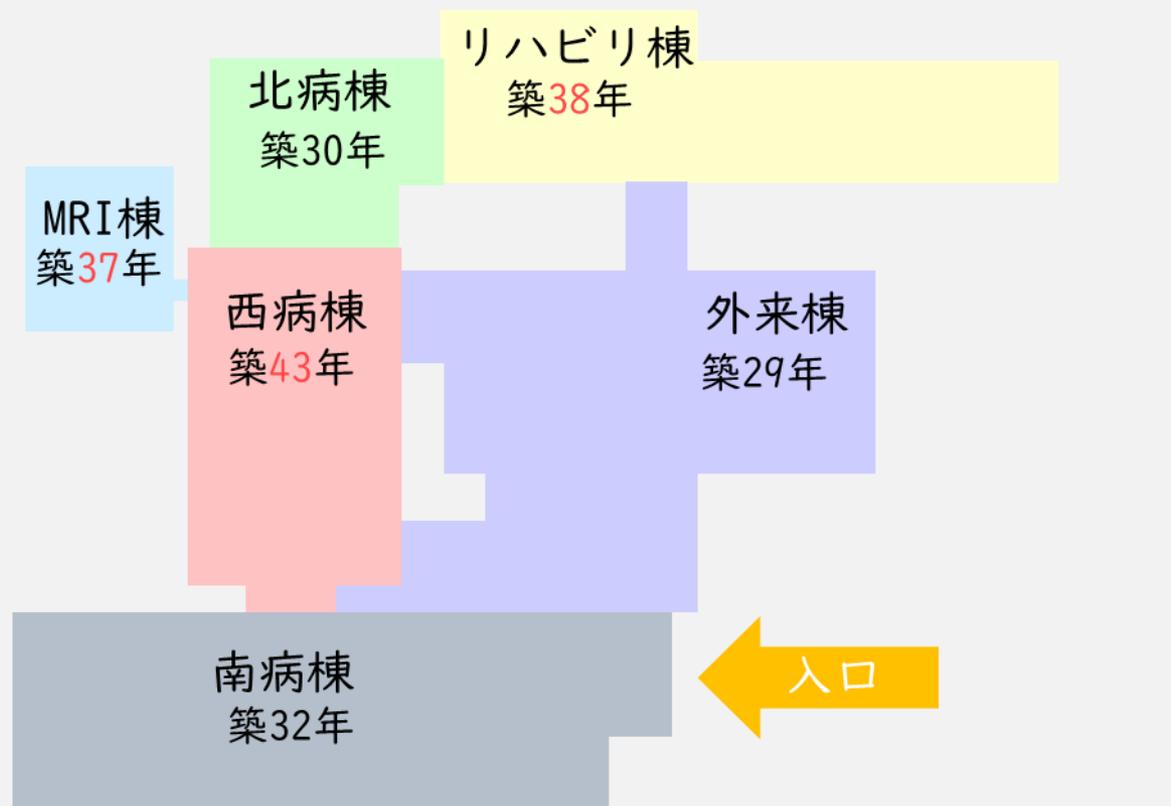
地域医療

④

3. プロローグ

(3) 現状建物の築年数と現状

- 当院は、医療需要に答えるため、増改築を行ってきました。
- 最も古い西病棟は、築43年経過しており、法定耐用年数年数の39年を超過しています。
- 現在、全ての建物で、老朽化が進んでいます。（本日、見学いただきます。）



3. プロローグ

(4) 新病院再整備に向けた検討スケジュール

年度	平成29		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
プラン			改革プラン 策定		経営強化 プラン策定		
調査・診断	西病棟 耐震診断		新病院整備に 向けた基礎調査	病院施設 劣化調査			
あり方検討 構想・計画				再整備に向けた あり方検討会	パブリックコメント 有識者会議	基本構想 基本計画	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 旧耐震基準 耐震診断の結果、西病棟は大規模地震に耐えられない構造 		<ul style="list-style-type: none"> 改革プランにて、老朽化が進む中、医療提供を継続するため再整備が課題と提言。 建物等の調査、検証を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化調査では、各建物の劣化状態が改めて浮き彫りとなる。 あり方検討会では、全会一致で「移転新築案」となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民や有識者、医師会、歯科医師会等から、意見を聴取。 市として移転新築案で進む方針を決定。 		

3. プロローグ

(5) 施設劣化調査報告書 一次調査結果総括表（令和4年9月）より

- 現状の建物の状況を把握するため、令和4年9月に実施した施設劣化調査を実施しました。
- その結果、建物の基礎や躯体を除き老朽化の進行を改めて確認、何らかの対策が必要という結論に至っています。

建物名	築年数	屋根	外装	内装	躯体	基礎	機械設備	電気設備	野外 (敷地)
西病棟	43年	D	C	C	A	A	D	C	C
リハビリ棟	38年	C	C	C	A	A	C	C	C
MRI棟	37年	A	D	B	A	A	C	C	C
南病棟	32年	D	D	D	A	A	C	D	C
北病棟	30年	C	B	C	A	A	C	C	C
外来棟	29年	C	D	C	A	A	C	D	C

良い A < B < C < D 悪い

3. プロローグ

(6) 新城市民病院あり方検討会や市としての方針決定の過程

- 令和4年度には、「新城市民病院あり方検討会」を5回にわたり開催。
- 「現地建替え」、「既存施設の改修」、「移転新築」の3つの再整備の方法について、建築や医療等、様々な視点で検討を実施。
- 最も課題が少なく、地域の基幹病院として今後も責務を果たしていくためにも、**全会一致で移転新築案**であるという意見が取りまとめられました。

	現地建替え	既存施設の改修	移転新築
費用	△	◎※	○
工期	△	○	◎
あり方検討会等での意見	○	△	◎
総合評価	○	△	◎

※…数十年先に別途、大規模改修（追加費用）が必要となる。

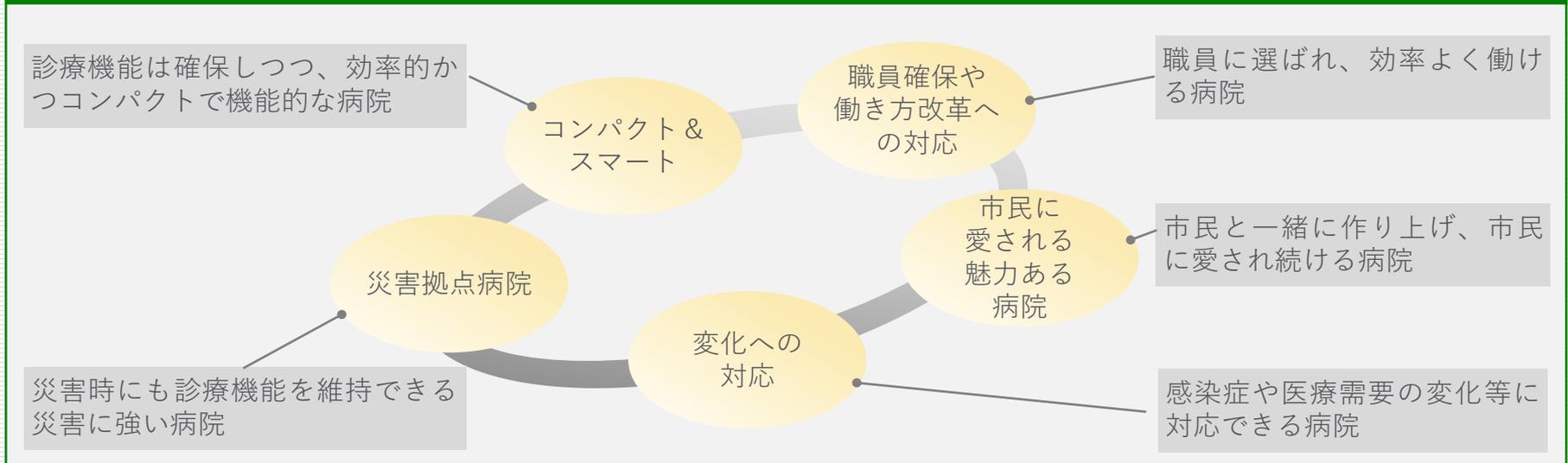
- 令和5年度には、市民の声をきくパブリックコメントを実施。また新城市医師会、北設楽郡医師会、新城市歯科医師会、新城市薬剤師会、代表区長等からの意見聴取。
- 総合的に判断し、市として令和5年11月に、再整備手法は移転新築案とすることを決定しました。

3. プロローグ

(7) 昨今の新病院整備の現状

- 昨今、**建築費は高騰**しており、新城市民病院のあり方検討を実施した令和4年度頃と比較しても約1.5倍になっています。
- また、令和5年度以降、物価の高騰や人件費の上昇等により病院経営は厳しい状況にあり、公立病院の**約70.4%（854病院中601病院）が赤字経営**です。（総務省：令和5年度地方公営企業年鑑より）
- そのため、新城市民病院に求められる役割や果たすべき役割と、新病院整備費用の双方を踏まえ、無理や無駄のない**最適な機能の検討**が重要となります。

～持続可能な新病院整備の為に～



4. 新城市民病院を取り巻く環境

(1) 東三河北部医療圏について

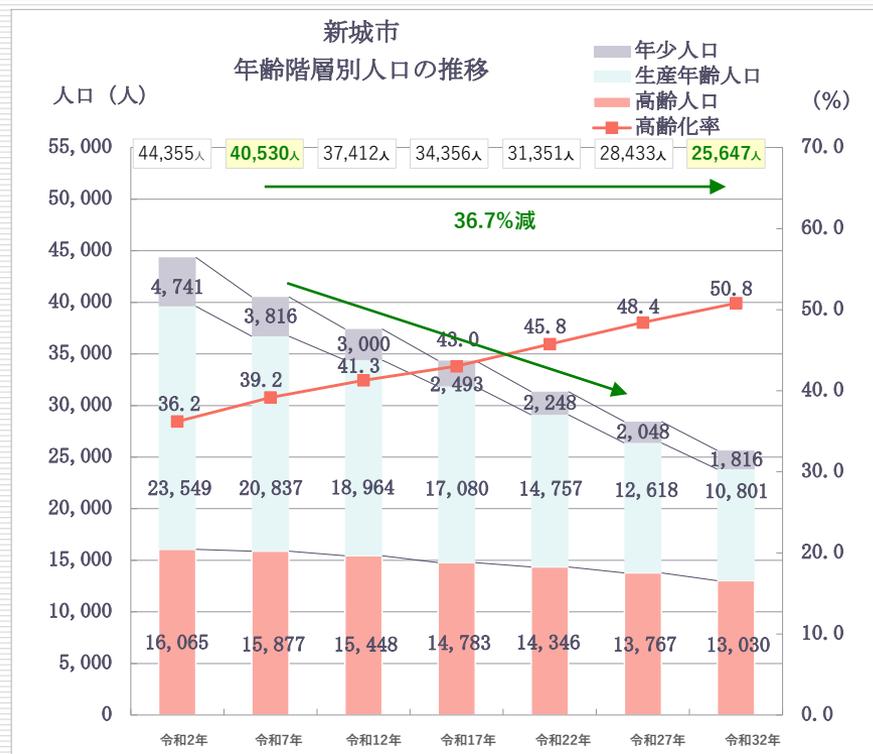
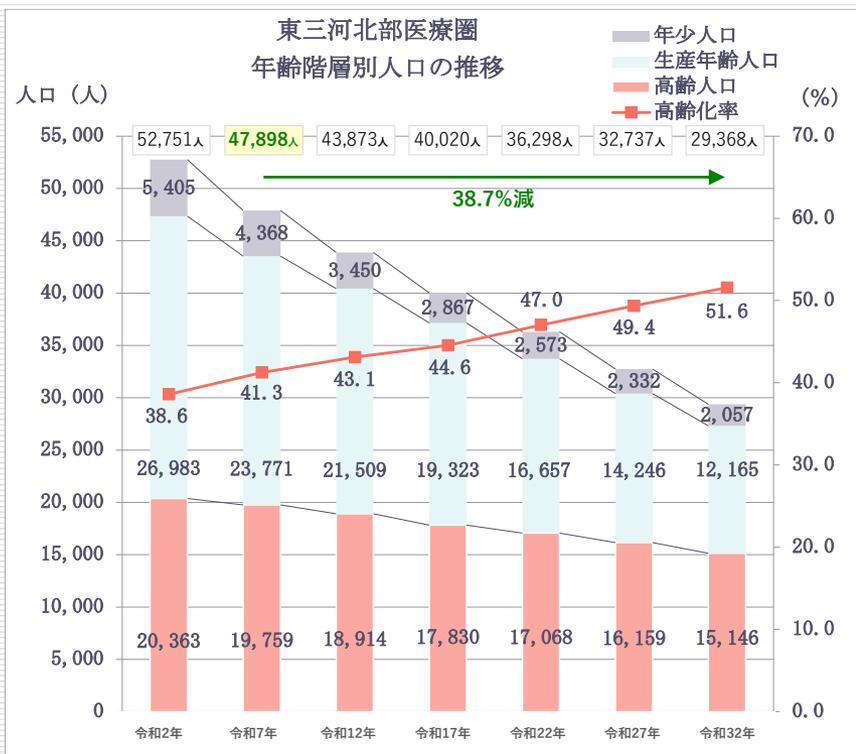
- 新城市は、1市2町1村（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）で構成する**東三河北部医療圏**（2次医療圏）に含まれます。
- 2次医療圏は、住民の医療ニーズに対応するため、複数の市町村をまとめて1つの単位とし、救急医療や入院医療等、一般的な医療を提供できるように整備されています。
- なお、設楽町や東栄町、豊根村には大きな医療機関はなく、**新城市民病院が東三河北部医療圏の重要な医療拠点**となります。



4. 新城市市民病院を取り巻く環境

(2) 東三河北部医療圏や新城市の人口

- 令和7年（2025年）時点の東三河北部医療圏（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）の人口は47,898人、そのうち、新城市は40,530人で約84.6%を占めます。
- 令和32年（2050年）には、新城市の人口は25,647人（36.7%減少）、高齢化率は50.8%になると見込まれます。言い換えると『**人口は現在の3分の2となり、2人に1人は65歳以上になる**』ことが予想されます。



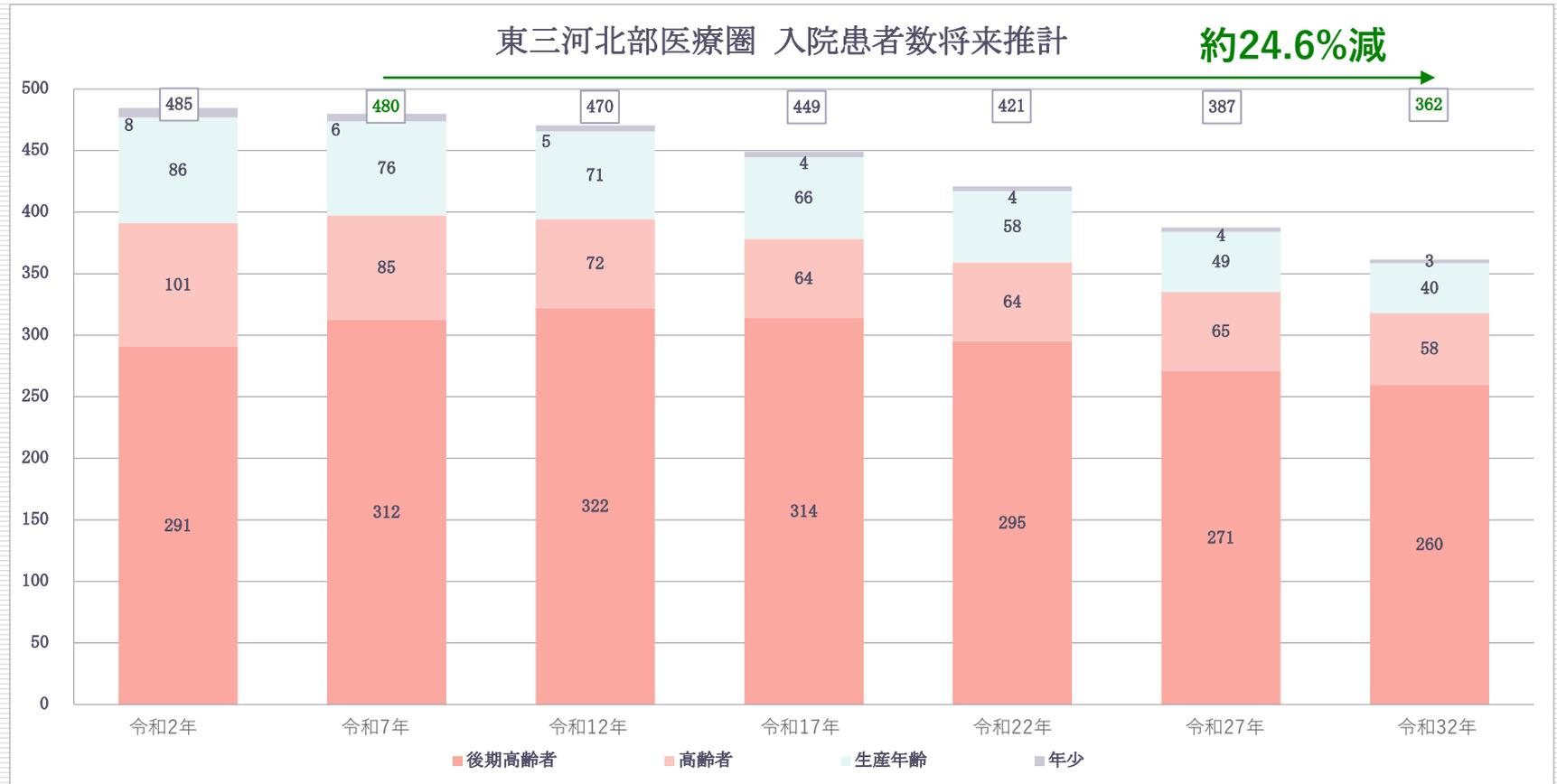
■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

4. 新城市民病院を取り巻く環境

(3) 東三河北部医療圏の入院患者数将来推計

- 東三河医療圏の将来入院患者数は、**人口減少に伴って徐々に減少**することが推察され、令和7年（2025年）の480人から、令和32年（2050年）の362人へ約24.6%減少する予測です。



■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

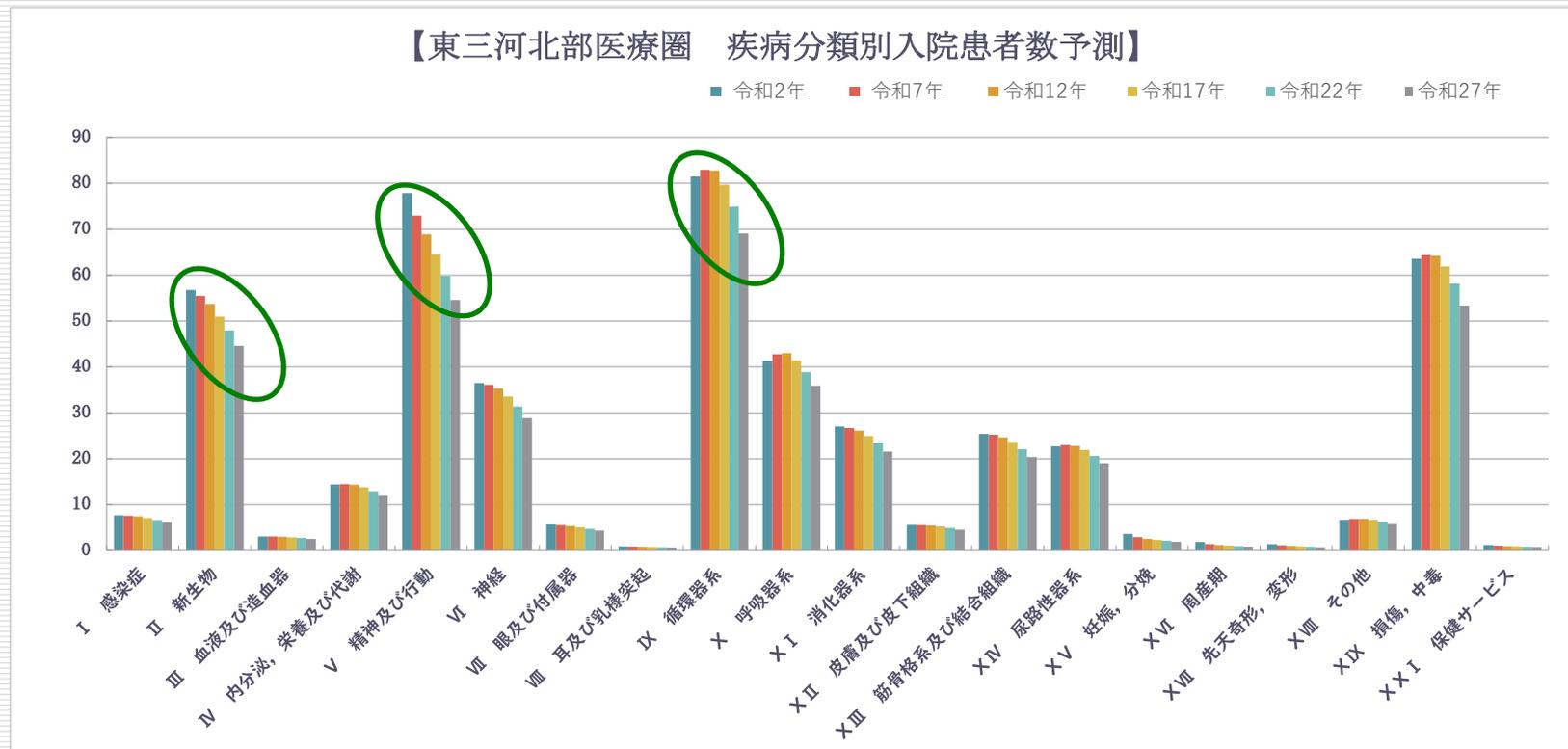
■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

■ 小数点1位以下を四捨五入しているため、合計数に差異が生じている場合がございます。

4. 新城市民病院を取り巻く環境

(4) 東三河北部医療圏の疾病分類別入院患者数予測

- 東三河北部医療圏の疾病分類別将来入院患者数は、一部の疾患で令和7年（2025年）から令和12年（2030年）にかけて微増するが、それ以降、全ての疾患において**減少、または緩やかに減少**することが予測されます。
- 特に、「II新生物」「V精神及び行動」「IX循環器」において減少が予測されます。



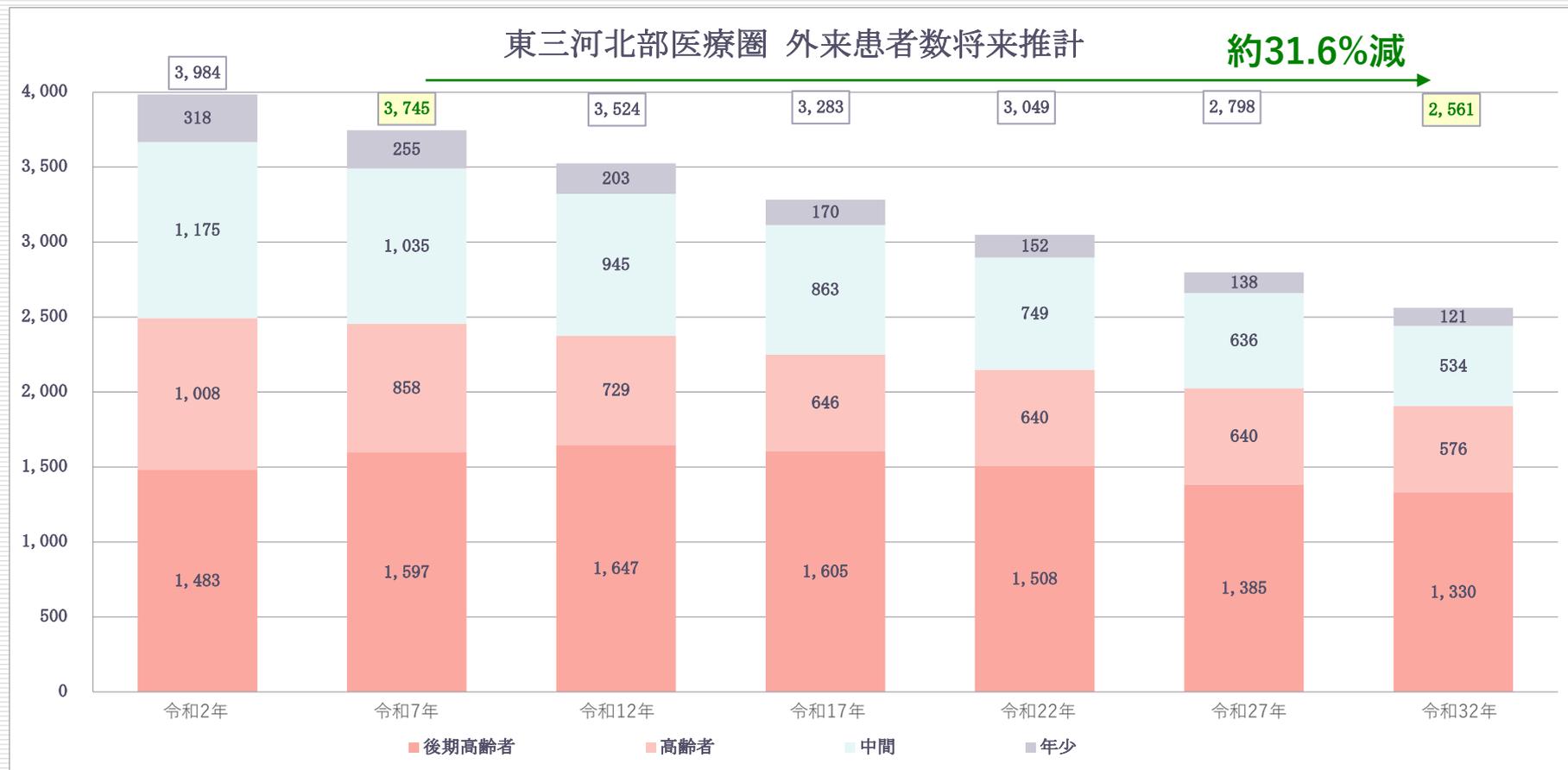
■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

4. 新城市民病院を取り巻く環境

(5) 東三河北部医療圏の外来患者数将来推計

- 東三河医療圏の将来外来患者数は、**人口減少に伴って徐々に減少する**ことが推察され、令和7年（2025年）の3,745人から、令和32年（2050年）の2,561人へ約31.6%減少する予測です。



■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

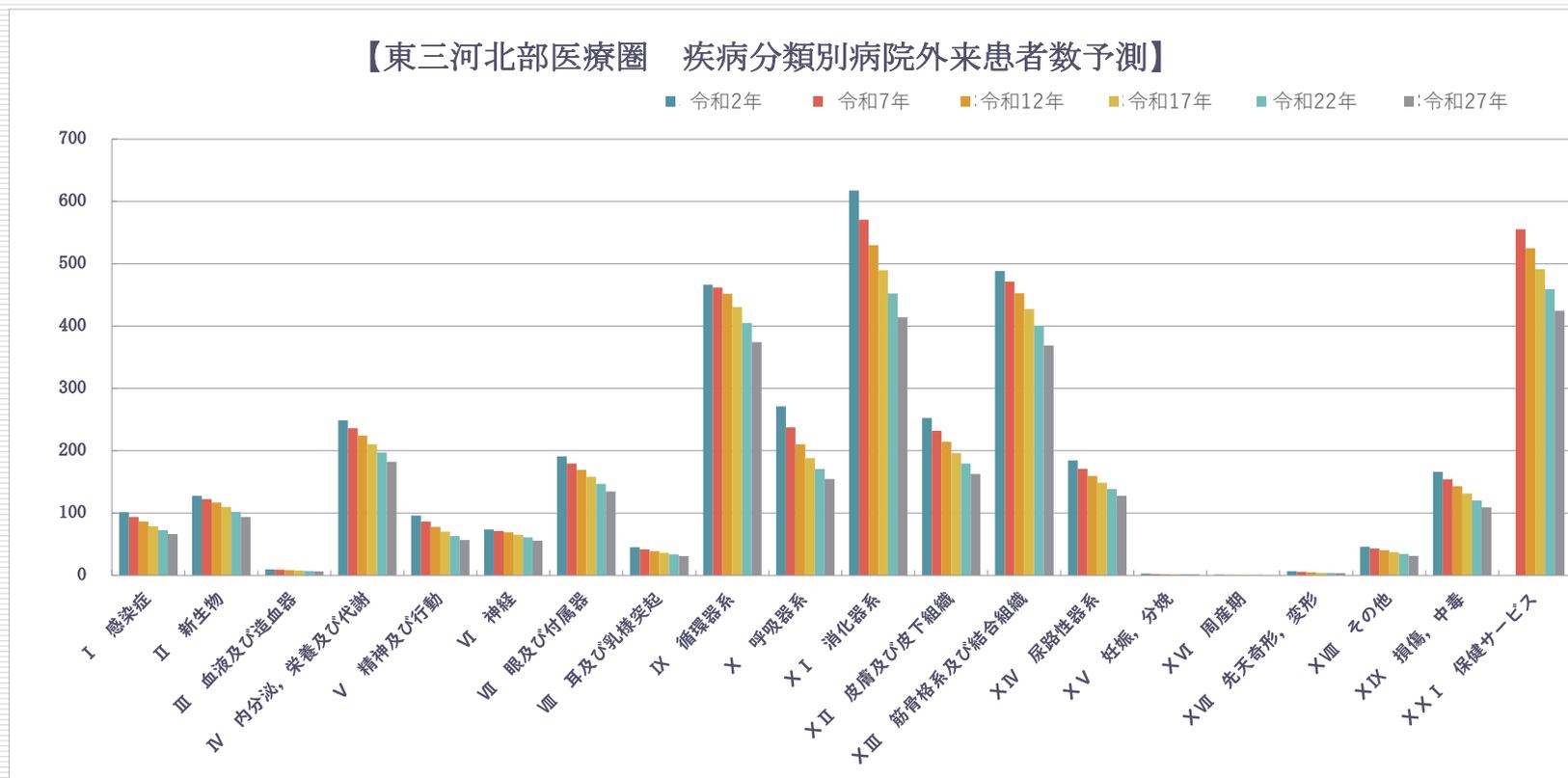
■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

■ 小数点1位以下を四捨五入しているため、合計数に差異が生じている場合がございます。

4. 新城市民病院を取り巻く環境

(6) 東三河北部医療圏の疾病分類別外来患者数予測

- 東三河北部医療圏の疾病分類別将来外来患者数は、**全ての疾患において減少**、または、緩やかに減少します。
- 特に「XI 消化器系」「XIII 筋骨格系及び結合組織」において大きな減少が予測されます。



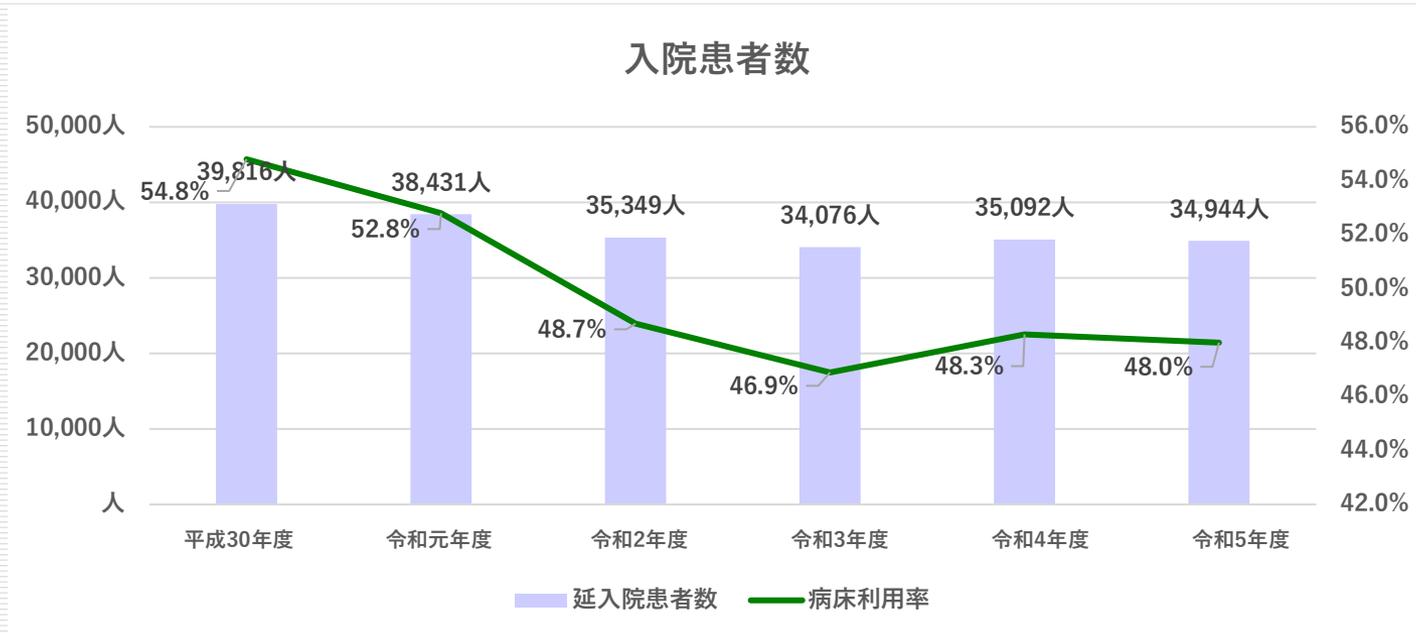
■ 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5年（2023年）推計」より

■ 出典：令和5年（2023年）患者調査（受療率（人口10万対）、性・年齢階級×傷病大分類×入院-外来・都道府県別（入院）（厚生労働省保健統計室）

5. 数字でみる新城市民病院

(1) 入院患者数

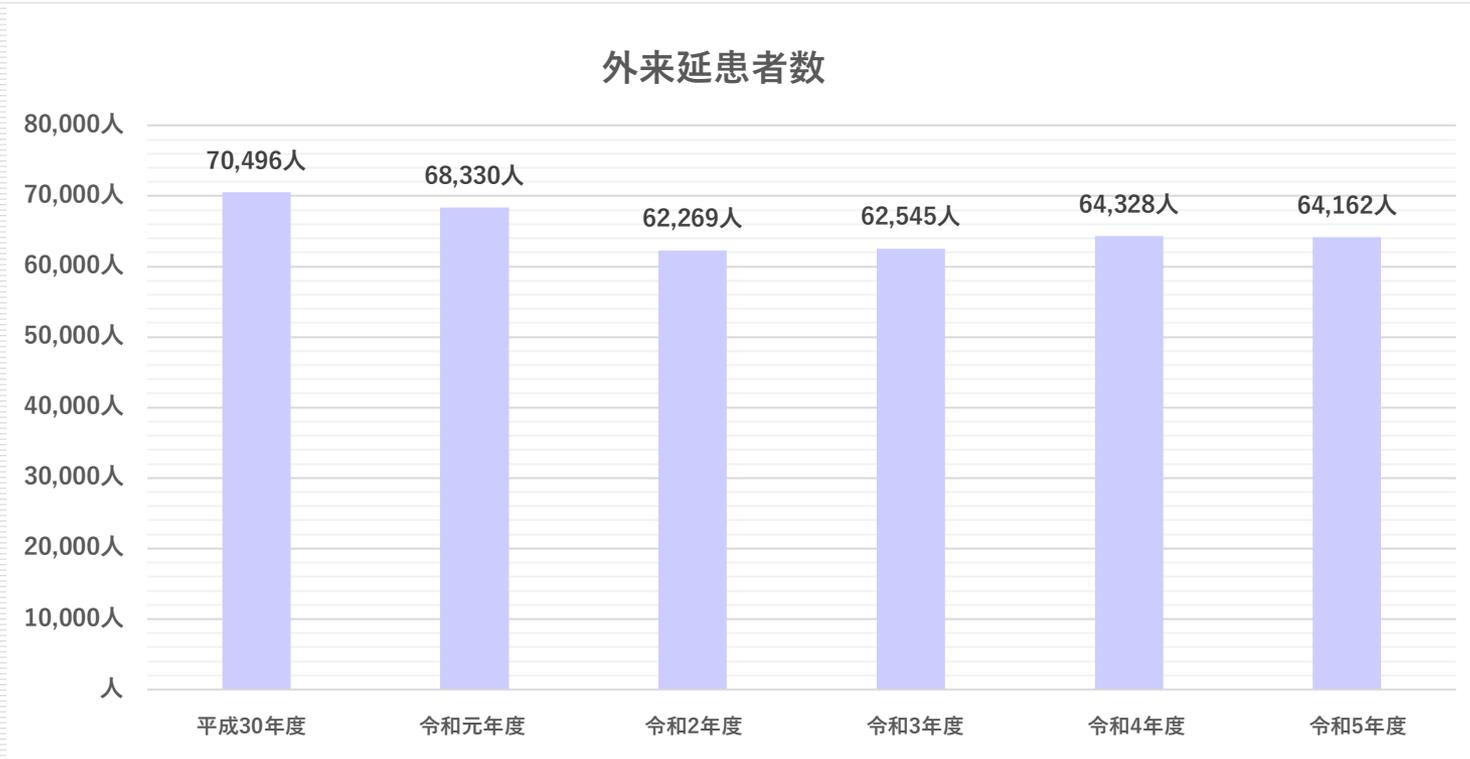
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延入院患者数	39,816人	38,431人	35,349人	34,076人	35,092人	34,944人
一日平均患者数	109.1人	105.0人	96.8人	93.4人	96.1人	95.5人
病床利用率	54.8%	52.8%	48.7%	46.9%	48.3%	48.0%



5. 数字でみる新城市民病院

(2) 外来患者数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来延患者数	70,496人	68,330人	62,269人	62,545人	64,328人	64,162人
一日平均患者数	288.9人	284.7人	256.3人	258.5人	264.7人	264.0人



5. 数字でみる新城市民病院

(3) 各種実績について①

指標	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
紹介率	45.8%	41.0%	40.2%	40.5%	37.4%	38.5%
逆紹介率	62.1‰	60.2‰	65.5‰	89.4‰	89.0‰	83.8‰
手術件数	567件	434件	466件	371件	627件	507件
内視鏡件数	3,669件	3,682件	3,402件	3,217件	3,107件	2,922件
人工透析件数	9,638件	9,750件	9,412件	8,831件	9,381件	8,892件
人間ドック件数	3,040件	2,941件	2,770件	2,702件	2,632件	2,727件
健康診断件数	2,229件	2,139件	2,326件	2,237件	2,262件	2,524件
薬剤管理指導	838件	691件	962件	563件	1,056件	1,089件
CT撮影件数	7,760件	7,728件	7,666件	7,400件	7,935件	7,352件
MRI撮影件数	2,176件	2,141件	2,060件	2,110件	2,059件	1,979件
高度医療機器共同利用件数	1,163件	1,072件	888件	884件	751件	735件
臨床検査件数	-※	-※	-※	125,676件	138,762件	129,282件

※…集計方法が令和3年度から変更になったことに伴い「-」とする。

5. 数字でみる新城市民病院

(3) 各種実績について②

指標	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
リハビリ単位数	38,819単位	39,173単位	40,363単位	40,262単位	40,875単位	43,078単位
訪問リハビリ単位数	3,565単位	3,644単位	3,374単位	3,397単位	3,359単位	3,383単位
栄養指導件数	2,079件	2,136件	2,232件	2,188件	2,106件	1,747件
特定保健指導	136件	91件	110件	118件	112件	209件
医師数	23名	25名	23名	23名	23名	21名
研修医の受入数	26名	25名	25名	22名	24名	24名
医学生の受入数	11名	4名	0名※	2名※	10名	8名
医学生の受入日数	62日	28日	0日※	4日※	63日	88日
出前健康講座	10回	6回	0回	0回	0回	4回
ほのか診察室	12回	12回	12回	12回	12回	11回
病院だよりの発行	12回	12回	12回	12回	12回	12回

※…新型コロナウイルス感染症の影響により減少。

5. 数字でみる新城市民病院

(4) 決算状況について①

単位：千円

名 称	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1 総収益	3,950,321	3,762,731	3,691,599	4,374,652	4,314,167	3,902,365
(1) 医業収益	3,254,195	3,107,103	2,708,679	2,651,733	3,043,524	2,940,701
ア 入院収益	1,656,690	1,583,755	1,516,433	1,414,467	1,714,977	1,612,938
イ 外来収益	1,097,373	1,071,979	991,406	1,016,660	1,119,745	1,117,305
ウ その他医業収益	500,132	451,369	200,840	220,606	208,802	210,458
(2) 医業外収益	570,724	505,884	954,595	1,722,722	1,268,942	953,006
(3) 特別利益	125,402	149,744	28,325	197	1,701	8,658
2 総費用	3,690,241	3,700,619	3,637,497	3,714,426	3,993,922	3,978,974
(1) 医業費用	3,521,597	3,531,412	3,469,169	3,551,087	3,821,579	3,815,629
ア 職員給与費	1,953,588	1,979,152	2,156,996	2,179,395	2,247,329	2,213,813
イ 材料費	490,327	445,466	413,256	439,892	545,554	588,044
ウ 減価償却費	224,078	289,569	280,362	288,047	299,324	302,440
エ その他	853,604	817,225	618,555	643,753	729,372	711,332
(2) 医業外費用	168,644	169,143	168,328	163,339	172,343	162,919
(3) 特別損失	0	64	0	0	0	426
3 経常利益	134,678	▲ 87,568	25,777	660,029	318,544	▲ 84,841
4 純利益	260,080	62,112	54,102	660,226	320,245	▲ 76,609
5 職員給与費比率	60.03%	63.70%	79.63%	82.19%	73.84%	75.28%
6 材料費比率	15.07%	14.34%	15.26%	16.59%	17.93%	20.00%
7 医業収支比率	92.41%	87.98%	78.08%	74.67%	79.64%	77.07%
8 経常収支比率	103.65%	97.63%	100.71%	117.77%	107.98%	97.87%

○経常利益：【(医業収益＋医業外収益)－(医業費用＋医業外費用)】

○純利益：【総収益－総費用】

○職員給与費比率：【職員給与費÷医業収益×100】

○材料費比率：【材料費÷医業収益×100】

○医業収支比率：【医業収益÷医業費用×100】

○経常収支比率：【(医業収益＋医業外収益)÷(医業費用＋医業外費用)×100】

■ 出典：決算状況調査

5. 数字でみる新城市民病院

(4) 決算状況について② 一般会計繰入金（市からの繰入金）等

単位：千円

	項 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収益的 収入	救急医療確保経費	233,765	0	0	0	0
	保健衛生行政事務に要する経費	4,520	5,400	18,962	24,000	28,195
	建設改良に要する経費(企業債利息)	34,480	27,537	20,372	13,082	6,097
	リハビリテーション医療に要する経費	43,091	37,739	38,800	45,943	39,917
	小児医療に要する経費	31,147	32,632	28,059	29,287	34,079
	不採算地区中核病院の機能維持に要する経費	0	239,497	229,926	224,999	264,104
	研究研修費	4,922	3,718	2,762	5,515	4,696
	追加費用負担経費	17,147	16,419	14,606	13,266	12,321
	基礎年金拠出金公的負担経費	54,439	53,787	51,080	53,152	54,745
	児童手当	10,870	10,435	9,598	8,849	7,787
	院内保育所の運営に要する経費	10,860	11,547	10,335	13,332	11,927
	公立病院経営強化の推進事業	0	0	0	0	6,038
	医師確保対策に要する経費	113,330	115,089	202,106	174,710	205,847
資本的 収入	企業債償還元金	228,164	235,023	240,069	255,341	206,620
	建設改良費	44,237	10,000	40,325	45,524	24,627
	基準外繰入	60,750	82,135	0	0	0
	合 計	891,722	880,958	907,000	907,000	907,000

5. 数字でみる新城市民病院

(5) 市の財政状況

- 令和5年度、新城市の実質負担見込額（実質的な借金・下表の④）は142億円で、平成19年度と比較すると、約28.0%減少しています。
- 市債残高のうち、新城市民病院の金額（下表の②）は、令和5年度は2.9億円で、平成19年度と比較すると、約93.4%減少しています。
- 基金（市の貯金・下表の⑤）は、65.7億円で、平成19年度を比較すると、28.0億円増加しています。しかし、貯金の2倍以上の実質的な借金があり、今後も人口減少に伴う歳入の減少等の可能性があります。

単位：千円

年度	平成19年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市債残高（市の借金） ①	42,851,251	42,201,826	42,380,402	41,893,380	40,623,617	39,884,705
うち、新城市民病院の金額 ②	4,450,657	1,513,329	1,251,180	981,965	633,647	293,220
地方交付税参入見込額 ③	23,112,160	27,258,069	26,134,192	26,504,943	25,949,045	25,663,297
割合	53.9%	64.6%	61.7%	63.3%	63.9%	64.3%
市の実質負担見込額（①－③） ④	19,739,091	14,943,757	16,246,210	15,388,437	14,674,572	14,221,408
割合	46.1%	35.4%	38.3%	36.7%	36.1%	35.7%
基金（市の貯金） ⑤	3,769,150	6,507,286	6,280,434	7,033,889	6,964,161	6,573,178

6. 新城市民病院の取組み

(1) 救急医療（受入れ体制、件数等）

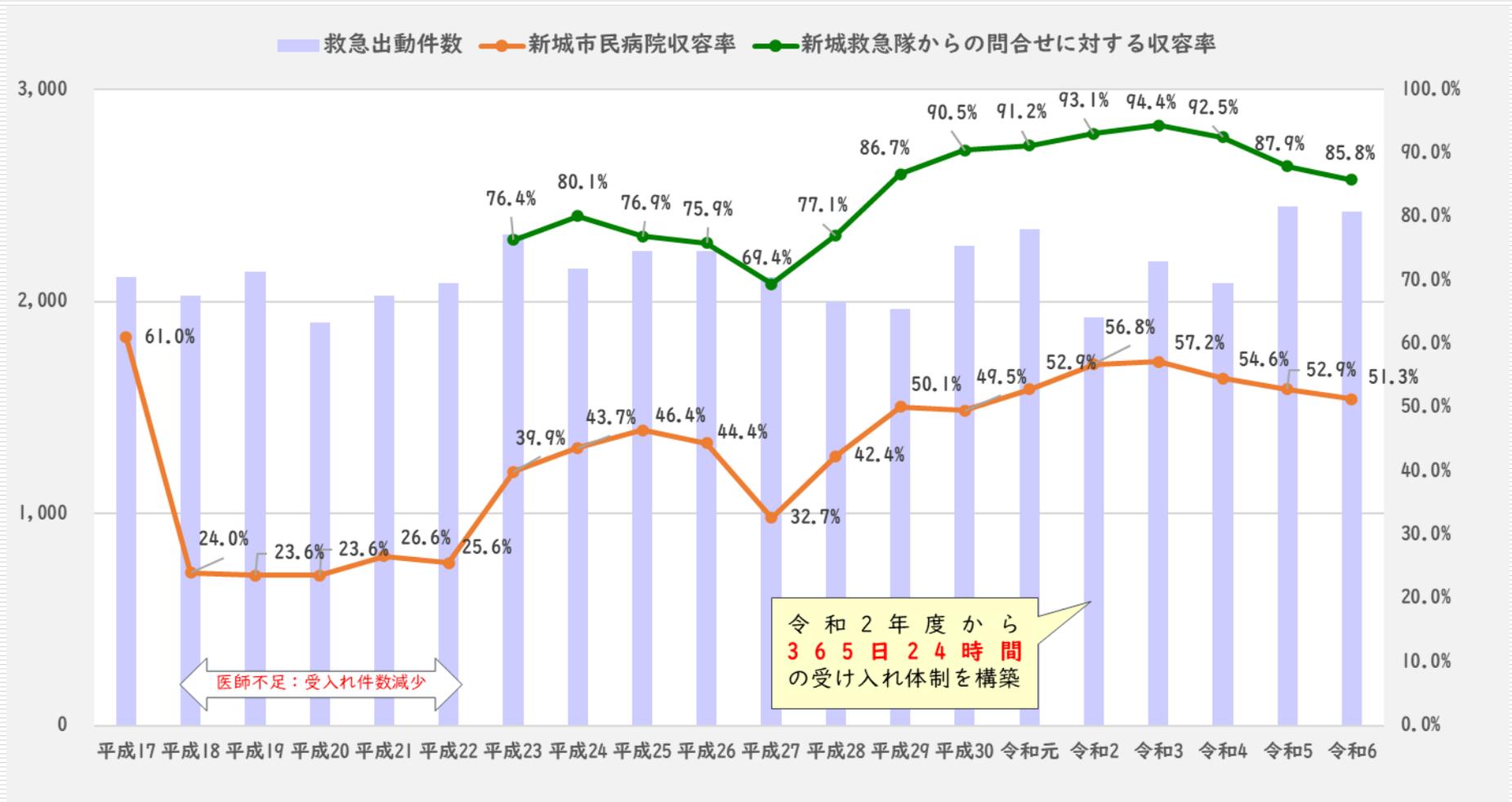
- 平成18年度に深刻な医師不足に陥り、救急患者さんの受入れが厳しい状況となりました。
- 愛知県からの自治医科大学卒業医師の派遣により、段階的に救急医療体制を整え、現在は、**365日24時間の救急患者さん**に対応しています。
- 平成18年度～平成22年度、約**500件に落ち込んだ**救急患者さんの受入れは徐々に回復し、直近3年の平均は**1,227件**となっています。
- 令和6年度、新城市消防署管内の救急車の救急出動件数は、2,422件です。そのうち、当院には1,449件の問い合わせがあり、**1,243件（85.8%）**を受入れました。
- 当院では、主に**内科系医師1名、看護師2～3名で救急医療に対応**しているため、脳血管疾患や心血管疾患等は、豊橋市民病院、豊川市民病院、豊橋ハートセンター等に搬送されます。

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
常勤医師数 (人)	32	24	21	21	20	20	20	21	23	25	23	22	23	23	25	23	23	23	21	21
救急出動件数 (件)	2,118	2,028	2,140	1,903	2,030	2,086	2,316	2,156	2,239	2,237	2,116	1,998	1,962	2,261	2,342	1,923	2,191	2,088	2,450	2,422
当院が受入れた件数 (件)	1,293	486	505	450	540	533	924	942	1,040	994	691	848	982	1,119	1,240	1,092	1,254	1,141	1,297	1,243
割合 (%)	61.0	24.0	23.6	23.6	26.6	25.6	39.9	43.7	46.4	44.4	32.7	42.4	50.1	49.5	52.9	56.8	57.2	54.6	52.9	51.3
当院への問合せ件数 (件)	—	—	—	—	—	—	1,210	1,176	1,352	1,309	996	1,100	1,132	1,237	1,360	1,173	1,328	1,234	1,476	1,449
割合 (%)	—	—	—	—	—	—	76.4	80.1	76.9	75.9	69.4	77.1	86.7	90.5	91.2	93.1	94.4	92.5	87.9	85.8

医師不足：受入れ件数減少

6. 新城市民病院の取組み

(1) 救急医療（受入れ体制、件数等）



平成18年度
・医師不足により
救急患者の受入困難

平成23年度
・週1回の当直
・21時までの待機体制

平成24年度
・平日の宿直体制

平成25年度
・土曜の日直体制

平成26年度
・日曜の日直体制

平成29年度
・土曜の宿直体制

令和2年度
・日曜の当直体制
・365日24時間の
受け入れ体制を構築

6. 新城市民病院の取組み

(2) 新興感染症

- 新型コロナウイルス感染症については、**公立病院の責務**として初期の段階から、受診や検査等の外来患者への対応に加え、新型コロナウイルス感染症病床を確保し入院患者の受入れを行ってきました。
- また、令和3年度には市からの要請により、新型コロナウイルスのワクチン接種について、当院の医師や看護師等が積極的に協力し、それにより高い接種率となりました。
- 日々の感染症対応に加え、衛生資材の適正量の備蓄等を行い、新興感染症等の発生時に継続して医療を提供できる体制を構築しています。

年度	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	合計
検査の実施	38名	935名	2,875名	7,137名	3,607名	2,332名	16,924名
入院患者数	0名	17名	250名	161名	114名	－	542名
延べ入院日数	0日	223日	710日	1,189日	814日	－	2,936日

6. 新城市民病院の取組み

(3) 災害医療

- 当院は、災害時における医療提供の中心となる**災害拠点病院**（令和6年4月時点で全国に776病院）の指定を受けています。
- 災害拠点病院は、**災害医療に関する専門的な知識や体制の整備**が求められており、毎年、災害時を想定した**災害訓練等**を行っています。
- また、医師・看護師・業務調整員で構成する**DMAT**（Disaster Medical Assistance Team）と呼ばれる**災害派遣医療チーム**を有しており、災害の急性期（概ね48時間以内）に活動できるよう専門的な研修・訓練を受けています。
- 令和6年1月に発生した能登半島地震では、厚生労働省DMAT事務局からの要請により、七尾市と輪島市にDMAT隊を派遣しました。



【当院のDMAT隊（8名）】

医師2名、看護師4名、臨床工学技士1名、事務1名、車2台

6. 新城市民病院の取組み

(3) 災害医療

災害訓練

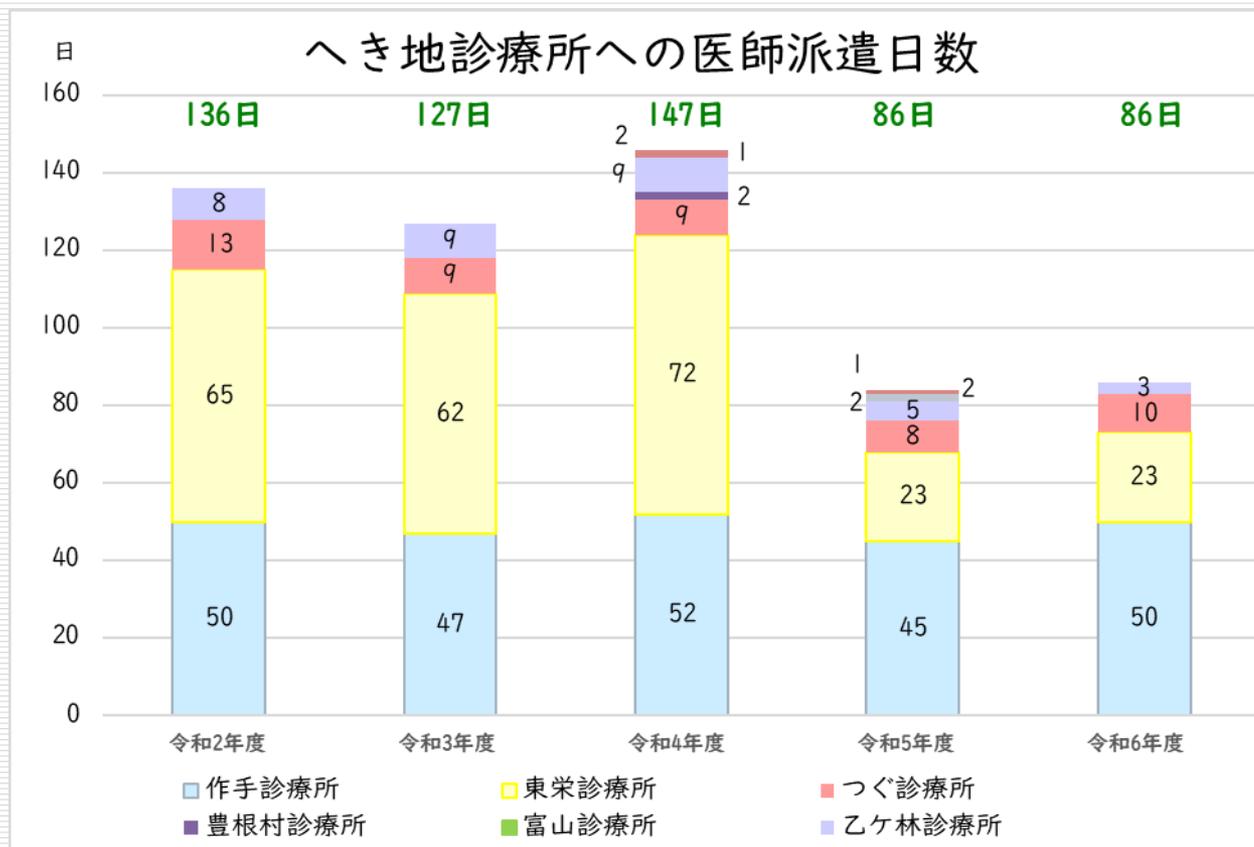
- 当院では、年2回の防災訓練を実施しています。
- 令和7年3月には、令和6年度に発生した**能登半島地震と同規模の地震が新城市で発生**したことを想定した防災訓練を、医師をはじめ**全職種参加**で実施しました。
- 病棟や外来などの各部署は、災害発生時にすべき行動や果たすべき役割を簡素に記載したアクションカードに沿った行動を確認し、また災害対策本部の設置や運営、被害の報告等を収集しました。
- 今回の訓練の反省点や改善点を洗い出し、より良い対応等を再考し、今後も**災害拠点病院として“いざ”という時のために訓練**を継続していきます。



6. 新城市民病院の取組み

(4) へき地医療拠点病院

- 当院は、**へき地医療拠点病院**の指定を受けており、東三河北部医療圏内の作手診療所、東栄診療所、つく診療所、富山診療所等のへき地診療所に**代診医を派遣**しています。



東栄町国民健康保険東栄診療所



新城市作手診療所



6. 新城市民病院の取組み

(5) 医療人育成

学生の受入れ

- 当院では、医療従事者を目指す医学生、看護学生、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士等の学生実習や見学を積極的に受け、医療人育成に貢献しています。
- また、将来、医療に興味を持ってもらえるように中学生、高校生の職場体験も積極的に受け入れています。



6. 新城市民病院の取組み

(6) 健康情報の発信

出前健康講座

- 地域の方の健康増進の啓蒙活動のため「**地域に出向いて講座をしよう!**」と院長の音頭で始動した出前講座です。
- 医師の医学講座、看護師による講座は、皆さんが日ごろ疑問に思っている事や、不安に思っている事などニーズにお答えできるようなテーマのご相談にも応じています。
- みなさんとの交流も楽しみにしています。

- ・ 認知症について
 - ・ 熱中症について
 - ・ 心臓病について
 - ・ 誤嚥性肺炎について
 - ・ 能登地震災害支援について
 - ・ フレイル予防
- 等々



健康教室

- 健康増進の啓蒙活動のため、院内で地域の皆様が気軽に参加できる健康教室を行い、生活習慣予防のための情報発信を行っています。
- ・ 血糖コントロールのワンポイント
 - ・ 「糖尿病」を正しく知って共に歩もう! 等々



6. 新城市民病院の取組み

(7) 国際貢献

JICA課題別研修

- 令和6年12月6日に独立行政法人国際協力機構（JICA）の研修員12名が来日しました。
- 新城市民病院医師が「感染予防と管理：薬剤耐性と医療感染関連」をテーマに、へき地の病院の組織体制や必要なスキル、当院の取組や課題等について、研修を実施しました。
- JICA課題別研修は開発途上国の様々な課題解決を後押しする技術協力事業の一つであり、国づくりの中核となる人材の育成を目的に開始された事業です。
- 今回のテーマである「感染予防と管理：薬剤耐性と医療感染関連」においては、開発途上国における経済・社会発展の阻害要因となる感染症について薬剤耐性（AMR）及び医療関連感染（HAI）の予防・管理に関する知識・技術の向上を目的としております。
- 研修では医療従事者の育成、確保など各国共通の課題等について質問、共有されるなど盛り上がりを見せました。



参加国（7か国）

- ・ エジプト
- ・ エチオピア
- ・ 東ティモール
- ・ バングラデシュ
- ・ コンゴ民主共和国
- ・ ザンビア
- ・ ウクライナ

6. 新城市民病院の取組み

(8) 地域交流

病院祭

- 当院では「地域に信頼と安心感を提供する当院の有り様を紹介する」ため、病院祭を開催しています。

【病院祭りの目的】

- 健康講座、健康相談、検査内容、診療内容等を通じ、当院の医療活動を知っていただく。
- 地域住民の健康への意識を高めていただく場となることを目指す。
- 若者に医療に興味を持つ機会を与え、未来の職員獲得を目指す。
- 職員自身が病院に愛着を持ち、職員間の交流を図る。



6. 新城市民病院の取組み

(8) 地域交流

ミニミニクリスマスコンサート

- 令和6年12月20日に新城市民病院1階ロビーにて、約15年ぶりにミニミニクリスマスコンサートを開催しました。
- 当日はハンドベルやピアノによるクリスマスメドレーの演奏、職員の有志によるギター演奏を披露し、院内にクリスマスソングが心地よく響き渡りました。



7. ワークショップで考えて欲しいこと

あなたの思い、意見を聞かせてください

現在の市民病院は、建物・設備の老朽化が進行しています。そのため、今後も質の高い医療の提供や、救急医療、災害医療をはじめとする政策医療の重責を担い、東三河北部地域の基幹病院としての役割を十分に発揮するために新病院建設を検討しています。現在、新病院の役割や機能、規模等を決定する基本構想の策定を進めています。

市民の方々に「あなたのまちの市民病院」に対する意見や思い、これからのニーズを反映した基本構想としたいため「市民ワークショップ」を開催します。

1回目



6月21日（土）

13:30～15:30

病院の概要説明

・院内ツアー

2回目



7月26日（土）

13:30～15:30

市民病院に期待する役割・機能は？どのような施設、設備、サービスを望むか？

3回目



9月13日（土）

13:30～15:30

市民が創り、支える病院とは？ワークショップ意見のまとめ



～ みんなで考えよう あなたのまちの市民病院 ～